

プログラム番号	09003
---------	-------

平成21年度「国費外国人留学生(研究留学生)の優先配置を行う特別プログラム」

【1. 大学の概要】

①大学名 研究科名	京都大学地球環境学舎		
②学長名	松本 紘		
③所在地	〒606-8501 京都市左京区吉田本町		
④担当者 連絡先	所属部局・職名	国際部留学生課教育支援グループ	
	担当者氏名	甲斐 久美子	e-mailアドレス kumiko.kai@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp
	電話・FAX番号	075-753-2489 (TEL), 075-753-2562 (FAX)	
⑤ホームページ URL	http://www.ges.kyoto-u.ac.jp/cyp/modules/jst/		
⑥大学院在学留学生数	1,194人 (うち、国費留学生 484人)		

【2. プログラムの概略】

①プログラムの名称	環境マネジメントリーダープログラム
②プログラムの形態	修士課程(2年間)+博士課程(3年間)
③交流形態・受入体制	プログラム実施大学が単数
④実施研究科・専攻	地球環境学舎 環境マネジメント専攻
	(所在地) 〒606-8501 京都市左京区吉田本町
⑤連携大学・研究科・専攻名	地球環境学舎 地球環境学専攻 工学研究科 社会基盤工学専攻、都市社会工学専攻、都市環境工学専攻 エネルギー科学研究科
⑥受入れ学生数	20人 (修士8人、博士12人) (うち研究留学生優先配置人数: 修士0人、博士4人) (うち日本人学生数: 10人)
⑦担当教員数	合計 89人 (うち専任: 48人、兼任: 39人、非常勤: 2人)
⑧研究科長(代表者)名	所属部局・職名 地球環境学舎・学舎 教授
	研究科長名 小林 慎太郎

【3. プログラムの内容】

1. 概説

京都大学大学院地球環境学堂・学舎は、平成14(2002)年4月に地球環境学研究の推進と環境マネジメント人材養成を目的として設立された研究科で、従来の専門領域の枠を超えた人文・社会・経済・農・工・理学系を網羅する学際性と文理融合を備えた分野構成となっており、地球環境学専攻と環境マネジメント専攻の二専攻を有する。設立当初からの環境管理分野での海外教育・研究活動を展開してきたが、平成20年に科学振興調整費「戦略的環境リーダー育成拠点形成」の事業（事業名：環境マネジメント人材育成国際拠点、平成20～24年度）が採択され、途上国の環境問題を実践的に解決する国内外の環境リーダーを養成する教育プログラム（環境マネジメントリーダープログラム）を、平成21年4月から開設することとなった。

2. 環境マネジメント人材育成国際拠点の事業内容

本事業は、複雑で多岐にわたる地球的・地域的環境問題の解決に取り組む環境リーダーの育成を目的とするもので、日本人及びアジア諸国留学生を中心に修士・博士課程で教育する。カリキュラムは、地球環境的視点からの学際的な環境学理、都市環境衛生などの専門科目、国内外の環境に関わる長期インターン研修、学位論文研究から構成されている。

本事業は、京都大学をコア拠点として、フィールドキャンパス、サテライトオフィスを中心に運営する(図1)。コア拠点では、地球環境学舎がプログラム実施組織として、学生の入学、履修、講義提供、学位研究支援、就職斡旋など教育事務全般を担うとともに、フィールドキャンパスや関連組織と連携しながら、留学生の受入、日本人学生の海外派遣、教育・研究成果の広報活動、共同研究等の継続的展開を統括する。フィールドキャンパスは、ベトナム(ハノイ工科大学/ハノイ、フエ大学/フエ)、及び中国(清華大学深圳校/深圳)に設置し、各々特定教員が常駐して、実践的な環境問題の解決をおこなう教育・研究の海外活動拠点とする。また、その他の国々にもサテライトオフィスを設置し、留学生の募集・選抜等の業務を現地で行う。これにより幅広い地域からの優秀な学生募集を行い、地域特性や地域社会のニーズに柔軟かつ機動的に対応できる人材を育成する。

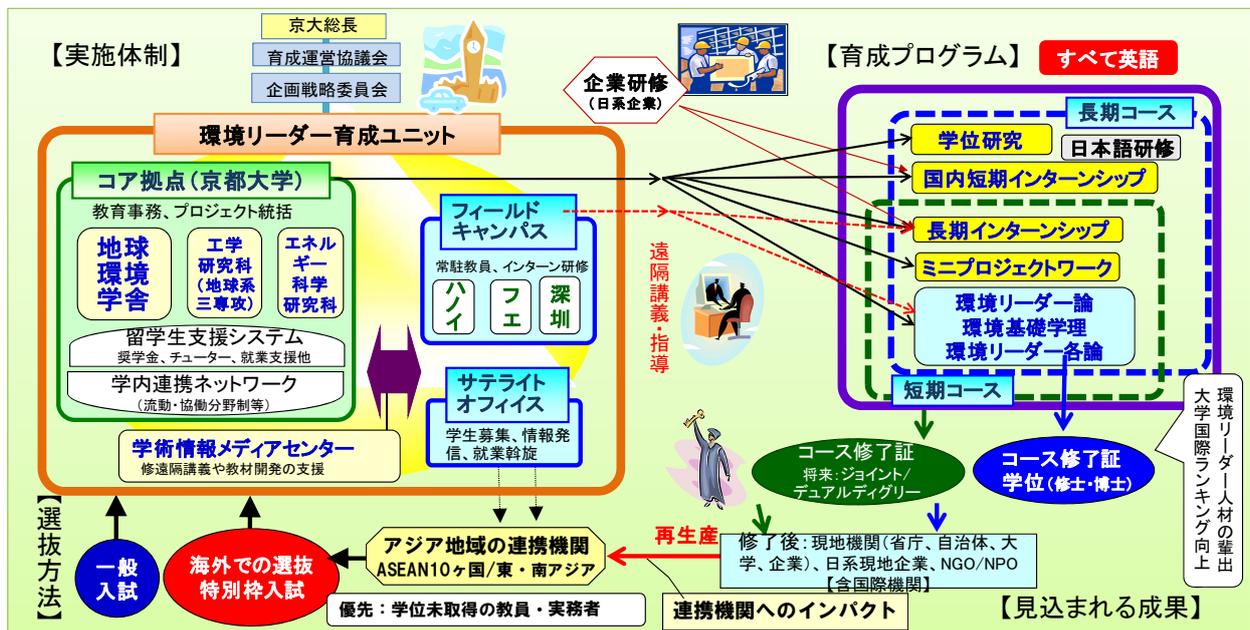


図1: 「環境マネジメント人材育成国際拠点」の事業概要

3. 環境マネジメントリーダープログラムの教育内容

3-1 開設コース、予定人数、使用言語等

地球環境学舎、工学研究科、エネルギー科学研究科大学院学生のうち、下記の教育プログラムを修了した学生を、本コース修了生とする。毎年の予定修了者数は、修士課程8名、博士課程12名であり、うち半数は留学生を予定する。なお、授業はもちろん、研究も含め英語のみで修了できるようにコース設計、日常サポート体制の整備をしている。

3-2 科目内容

(1)環境基礎論(必修、2科目各1単位)

環境学を学び問題解決を実践する環境リーダーとしてのあり方・考え方の構築を目的とした科目である。「環境リーダー論A」は国際環境プロジェクト等に関する講義を中心に構成し、「環境リーダー論B」は、外部から講師を招聘して行う特別講義を中心として構成する。

(2)環境基礎学理(選択必修、各2単位)

「地球環境法・政策論」、「地球環境経済論」、「地球資源・生態系管理論」、「環境倫理・環境教育論」、「アジア環境工学論」、「エネルギー環境基礎論」の6科目から2科目以上を選択する。これらの授業では、単なる専門知識だけでなく、環境リーダー育成に重要な文理融合科目の習得が期待できる。

(3)環境リーダー各論(選択)

各種専門科目の他、「国際協力論」、「ミニプロジェクトワーク」などの本プログラムに相応しい新科目も提供する。各学生の学習ニーズに応えるため、科目は柔軟に変更できるものとし、機動的な人材育成に資する。

(4)インターン研修(必修、合計10単位)

日本の最新技術を習得する「インターン研修A」(2週間以上)と、プロジェクト研究をする「インターン研修B」(修士課程2ヶ月以上、博士課程4ヶ月以上)を必修とする。インターン研修Aは最新科学技術を学習し、海外への技術移転・普及に役立てるため、インターン研修Bは、課題設定から政策提案まで一連の過程の自発的習熟のため、課す。フィールドキャンパスやサテライトオフィスは、インターン研修Bのテーマやフィールド提供という点で重要な役割を担う。

(5)学位研究

その学位研究の内容が環境マネジメントリーダープログラムの趣旨に合致する必要がある。このため、インターン研修の課題・内容も、学生は指導教員・研修先指導者と綿密に検討・計画し、学位論文につながる準備期間(研究手法の習得、予備調査・実験)と位置付け、効率的に学位取得を図るシステムとしている。

3-3 修了条件

上記科目から修士課程学生は22単位、博士課程学生は18単位を取得し、所属研究科の必要な修了要件(修士論文・博士論文審査合格他)を満たすことで修了する。なお、博士課程10月入学の留学生の場合の学習計画例を図2に示す。

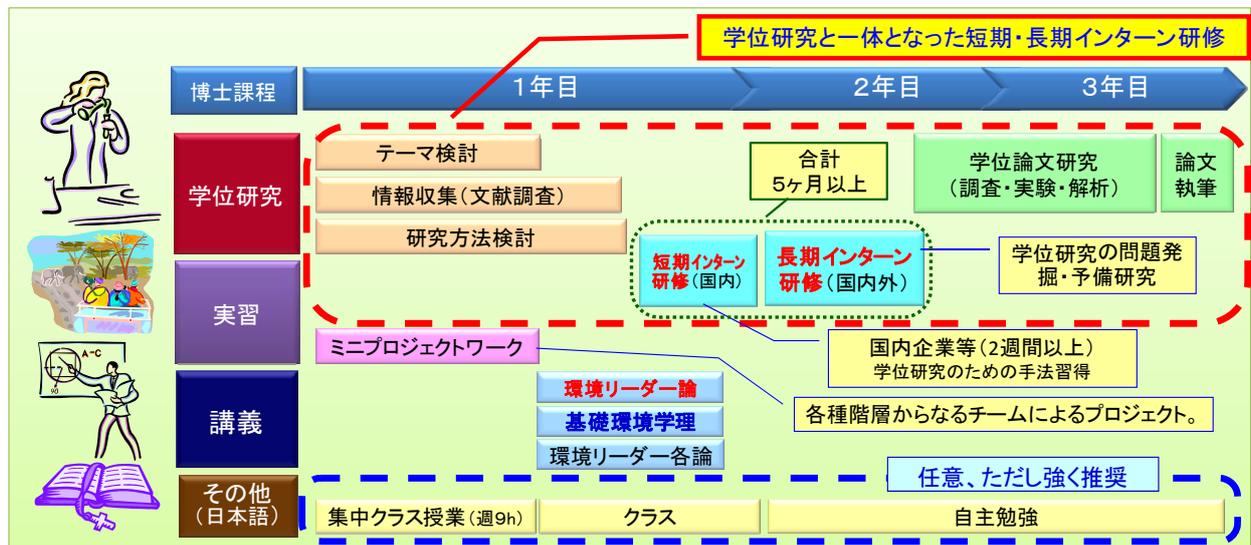


図2：博士課程10月入学の留学生の場合の推奨学習計画例

4. 募集方法、選考方法

国費外国人留学生優先配置対象学生(4名：博士課程のみ)の募集は、Webによる案内やフィールドキャンパスやサテライトオフィスを通じて実施する。応募者に対し、まず履歴書、大学・大学院(修士課程)成績に基づき、書類審査を実施する。本書類審査合格の若干名に対して面接試験を行い、最終的な合格者を決定する。面接はフィールドキャンパス等を利用して海外でも実施する。

優先配置対象者以外については、地球環境学舎、工学研究科、エネルギー科学研究科それぞれの通常入学試験(修士課程・博士課程)に合格することが、プログラム受講の条件となる。